

<今朝の聖書から>

【イスカリオテのユダ】悪の誘惑を受け、主イエスを裏切ること企てたユダは、聖書の中の大きな存在です。裏切り者の代名詞のように使われることもあります。14:10-11の出来事は、後からはっきりした事で、この時はまだ分かっていないのです。主イエスの群れの一人の心に起こった出来事で、弟子の一員として(他の弟子たちにも分からなかったほどに)働いていました。

【二つ心】水曜日の祈祷会では“そんな人間は、二心の者であって、そのすべての行動に安定がない(ヤコブ1:8)”が開かれました。私たちの毎日には、選択が付き物で“どちらにしようか”と何時も考えるものです。そして迷うのです。しかしヤコブ書では、そのような迷いには何の成果も決まないと、教えられています。私たちは“どちらが主イエスの道であるか”と、迷い、求め続けるでしょう。訓練は成長と恵みにつながりますが、迷いは克服されるためにのみあるようです。毎主日に“試みにあわせないで”とお祈りしますが、罪の誘惑は実に強く、人を引き裂く時もあります。マタイ27:5に“彼は銀貨を聖所に投げ込んで出て行き、首をつって死んだ”とあるような道をユダは選ぶこととなります。内なる不一致が極限までに達した時、人は生きていけないのです。現代の心理学の解釈でも、それをショックダウンと呼ぶ時がありますが、いきなり全ての活力を失い、放棄することがあります。

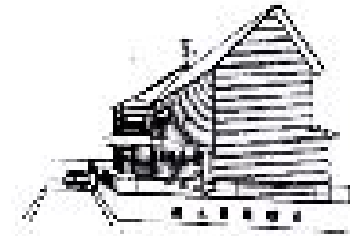
【最後の晩餐】16節までは、主が晩餐の用意を整えられたことが記されています。選ばれた弟子たちは、信頼によって招かれたのです。

【生れなかった方が良かった】こう語られるのは、主を裏切り自らをも否定したユダだけです(21節)。また御子に対する行いを、詩編41:9“わたしの信頼した親しい友、わたしのパンを食べた親しい友さえもわたしにそむいてくびすをあげた。”にたとえられます。

【契約の血】私たちは、聖餐のたびに、死と復活の記念として、パンとぶどう酒に与ります。“万軍の主はこの山で、すべての民のために肥えたものをもって祝宴を設け(イザヤ25:6)”と語り、主イエスは、御自身の死について語られます。死について語られる以上に、復活について語られるのです。“決して飲まない”事は死を意味していますが、“飲む事”そのものは生を意味しています。十字架の向こうに輝いている生です。“神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない(25節)”この神の国が、多くの人の為に与える契約なのです。この救いの契約に生きるのが教会です

週報

2010年 9月 19日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042